



SPRING HILL NEWS LETTER

韓国語には、「頑張る」という意味の言葉がない。

「韓国の友人から聞いた言葉。韓国には「頑張る」という意味の言葉がないというのです。スポーツの応援などで、日本は「ガンバレ！」と言いますが、それに該当する韓国語がない。似た意味で、「ヒム・ネー」と言うそうです。どんな意味かという「チカラを出せ」という意味——」これは中村禎さんの著書『最も伝わる言葉を選び抜くコピーライターの思考法』（2017年）で印象に残った一文。中村さんは、「ガンバレ！」というのはどこか無責任な気がするし、言われた方も「言われなくてもがんばるよ」「あんまり言われるとプレッシャーになるよ」と思うのではと指摘。その点、「チカラを出せ」は正しいとのこと。持っている力が70なら70を出し切る。変なプレッシャーに負けて、力を出しきれないのが一番ダメということでした。人生において頑張らなければいけない場面に、私も少なからず遭遇したことがあります。いつくらいか忘れましたが、そんな場面に遭遇した時は、「やることはやった」「なるようにしかならない」と思うようにしています。私なりに力を出し切れたと開き直れる時は、わりと結果が良かったりします。ヒム・ネーという言葉は知りませんでしたが、考え方は似ている気がしました。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

編集長「梶田」のつぶやき・・・

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

「悪の十字架」

これは私の知り合い K 君が体験したお話です。

それは暑い夏の夜のこと。その日、K 君は眠れなかったそうです。喉がカラカラになり、その日に限って冷蔵庫の中は何も入っていない。しかたなく K 君は台所に行って、水道の蛇口をひねりました。ところが水が出ないのです。断水？いや、そんなことは聞いていない。でも、やはり水は出ないのです。異常な喉の渇きを感じ、K 君は我慢できなくなり、近くのスーパーに水を買に行くことに。しかし、時計は夜の9時。こんな時間までスーパーは開いているのか、少し不安になりました。私たちが子供の頃は、今のようにコンビニがありませんでした。ひとけのない道を K 君は急ぎ、近所のスーパーにたどり着きました。しかし案の定、そのシャッターは下りていたのです。シャッターを何度もノックしましたが、当然ながら何の反応もありません。その時、K 君は看板を見てあることに気づきました。「このスーパー、開くの十時か…」「開くの十時か…」「開くの十時か…」「悪の十字架!!」。

—————これは子ども向けのおもしろ怪談話。みなさんは、ご存知でしたか。世代によっては知らない方も多いかと。※一部内容に少し手を加えてあります。

皆さますみません。今月はお休みで・・・



アディダスの三本線について

アディダスといえば、誰もが知っているスポーツブランド。スポーツをやっていた方はもちろんのこと、スポーツをやっていない方もカジュアルブランドとして、なじみがあるのではないのでしょうか。今回は、アディダスの三本線の話。まずはアディダスの簡単な説明を。設立は1948年。ニュルンベルク近郊のヘルツォーゲンアウラッハという街が創業の地になります。創立者はアドルフ・ダスラーさんという方。アドルフさんは家業の靴作りを継承するカタチで、アディダス社を創立。創立以来、スポーツシューズの開発に注力しました。少年の頃からスポーツ好きだったアドルフさんは、当時、革製のスポーツシューズの革が、使っているうちにしだいに伸びてしまうのが不満でした。そこで考えだしたのが、革が伸びないように側面を三本のバンドで補強するというアイデア。これがアディダスの三本線の生まれたきっかけ。昔は「勝利の三本線」と言われていたようですが、じつは当初は実用的なアイデアとして生まれていたようです。一般的に実用に徹したモノのデザインが美しいと言われていますが、まさにアディダスはその典型的なものでした。